◆第9期北海道総合開発計画

■北海道総合開発計画について

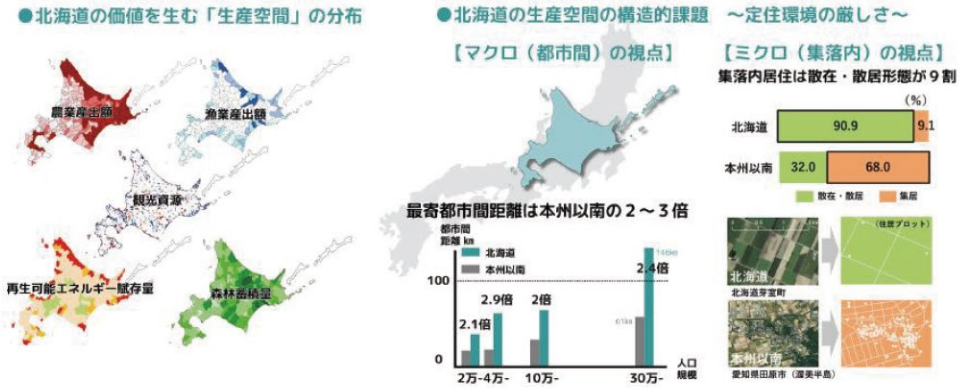
北海道総合開発計画は、北海道開発法に基づき、北海道の資源・特性を活かして我が国が直面する課題の解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図るため、国が策定する計画です。令和6年3月12日、第9期北海道総合開発計画が閣議決定されました。

■計画の概要

9期計画は、北海道の価値として、従来からの北海道の強みである「食」と「観光」に加え、再生可能エネルギーのポテンシャルを活かした「脱炭素化（ゼロカーボン北海道）」を3つ目の価値として位置づけ、これらの他で代替できない北海道の価値を最大化することで現下の国の課題解決を先導すること、そして、これらの北海道の価値は生産空間に住むこと・行くことで生み出されるものであることから、リアル（人流・物流ネットワークと強靱な国土づくり）とデジタルで定住・交流環境を維持・発展させていくことを目標としています。

【目標１】北海道のポテンシャルを活かし、我が国の豊かな暮らしを支える～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道～

【目標２】北海道の価値を生み出す北海道型地域構造の維持～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～



■後志地域での9期計画推進に向けて

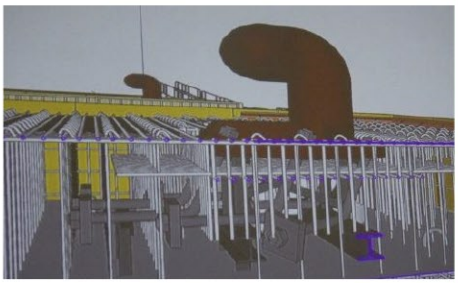
小樽開発建設部では、後志地域のブランド力ある多様な「食（農・水産物）」と国内外から多くの観光客を引きつける「観光」の高いポテンシャルを活かして、後志地域が8期計画推進を牽引するとの認識のもと、「世界の後志を目指して」を掲げて8期計画を推進してきました。後志地域は、9期計画で新たに加わった北海道の価値「脱炭素化」も高いポテンシャルを有しており、9期計画の推進も牽引する地域であることから、これからも「世界の後志を目指して」をキャッチフレーズに9期計画を推進します。

9期計画は、「多様な主体と『共に北海道の未来を創る』ことが中心的メッセージであり、計画の進め方として「官民の垣根を越えた共創」を掲げています。小樽開発建設部では、多様な主体や分野を越えた連携・協働に取り組み、将来像の実現に向けて地域課題の解決を目指します。また、様々な地域共創に参画し、後志地域の魅力や価値をさらに高めていくことに取り組みます。

Topics：インフラDX推進の取組

小樽開発建設部では、i-Construction モデル事務所として、BIM/CIM による3次元モデルの整備や ICT施工の推進に積極的に取り組んでいます。一般国道5号倶知安余市道路では、3次元モデルを活用して構造物情報を一元的に管理し、維持管理業務の効率化を図っています。また、石狩湾新港においても、3次元モデルを活用することで、設計・施工の高度化に取り組んでいます。

・3次元モデルで道路状況を把握し管理を効率化



・3次元モデルを活用した鉄筋干渉の可視化